

【予期せぬ天候リスク】 【後継者難】

◆不透明感増すコメの需給

コメの価格高騰が続いています。

総務省が発表した2024年11月の消費者物価指数によるとコメの価格は前年同月比で63.6%も上昇しました。しかし、コメ農家は長年の米価低迷、生産コスト増大で疲弊。

さらに気候変動のリスクも高まり、コメの需給バランスは崩れる可能性があります。

不透明感を増すコメの現状と今後を三つのキーワードで図解します。



夏の異常な高温はコメの生産に未知のリスクを突きつけている

予期せぬ天候リスク 後継者難

不透明感増すコメの需給

コメの価格高騰が続いています。総務省が発表した2024年11月の消費者物価指数によるとコメの価格は前年同月比で63.6%も上昇しました。しかし、コメ農家は長年の米価低迷、生産コスト増大で疲弊。さらに気候変動のリスクも高まり、コメの需給バランスは崩れる可能性があります。不透明感を増すコメの現状と今後を三つのキーワードで図解します。



1 気候変動

→ 高温障害によって品質低下 →

23年産米は主食用の「**一等米**」の割合が低下し、加工用の「**ふるい下米**」も減少

制作: ザンデー版編集部 羽雁 渉 デザイン: まここっと
 取材協力: 農林水産省、鈴木宣弘氏、帝国データバンク、日本総合研究所、JA常陸ほか
 出典・参考文献: 「令和5年夏の記録的高温に係る影響と効果のあった温暖化適応策等の状況レポート」(農林水産省)、「米穀流通2040ビジョン」(日本総合研究所)、「世界で最初に飢えるのは日本」(鈴木宣弘著、講談社+α新書)ほか



気候変動

高温障害によって品質低下

23年産米は主食用の「一等米」の割合が低下し、加工用の「ふるい下米」も減少



気候変動

高温障害によって品質低下

夜になっても気温が下がらない熱帯夜が増えた2023年



昼に光合成で蓄えたでんぷんも呼吸のエネルギー源として、夜に減少

中身がスカスカの
『白未熟粒』が増加

高品質米が不足

すき間が多く、
精米する時に碎
けやすい



白未熟粒

すき間がなく、
透明感がある



一等米などに
多いコメ

白未熟粒（しろみじゅくりゅう）は実が発育、肥大する「登熟期」にでんぷんの蓄積が不十分なため、白く濁って見えるコメ。

23年産米は記録的な猛暑が続き、多くの産地でコメの外観、大きさなどを目視する品質検査で白未熟粒が増え、整粒の割合が高い一等米の割合が減少

消費者が口にする主食用米の品薄招く

1

気候変動

高温障害によって品質低下

23年産米は主食用の「一等米」の割合が低下し、加工用の「ふるい下米」も減少

23年産米は主食用の「一等米」の割合が低下し、加工用の「ふるい下米」も減少

? ふるい下米とは

収穫した玄米をふるいにかける

網目は 1.7~2mm 間隔



主食用



ふるい下米

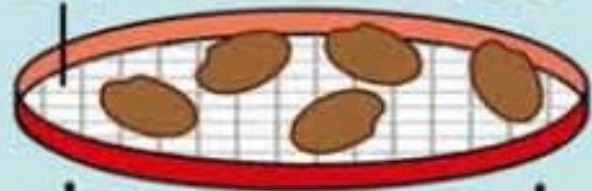
ふるいの下に落ちたコメは加工食品用
(みそ、米菓、みりんなど)
外食などの業務用になる



? ふるい下米とは

収穫した玄米をふるいにかける

網目は 1.7~2mm 間隔



主食用



ふるい下米



ふるいの下に落ちたコメは
加工食品用
(みそ、米菓、みりんなど)
外食などの業務用になる

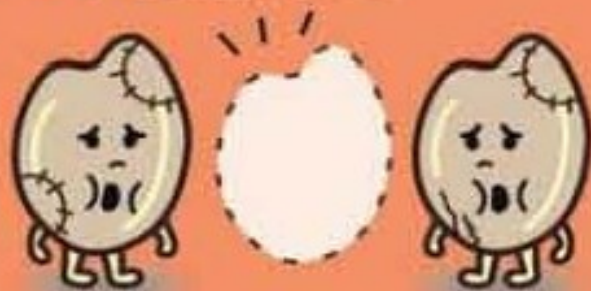


肥大し、中身がスカスカのコメ目立ち

「ふるい下米」の発生量 減

猛暑の影響で23年は米粒が肥大化し、中身がスカスカのコメが増えたため、ふるい下米の発生量も減った。

例年ならば50万トン前後の量が発生するが、23年は「ふるい下米」の発生量が32万トンに急落した。



ふるい下米の発生量（推計）



ふるいにかけて下に落ちるコメが減少、
加工食品用米の需給がひっ迫した



低価格帯のふるい下米の不足 が価格高騰の引き金に

不足の連鎖

ワンランク上のコメが不足し、今度はその上の主食用米を買い求める下からの「玉突き現象」が起きた

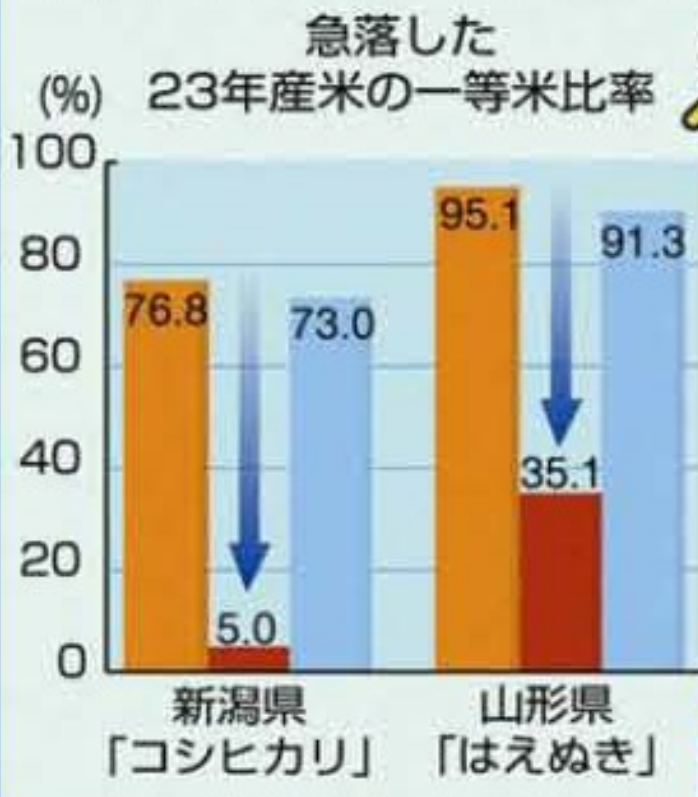
ワンランク上のコメを買い求める動きが生じる

ふるい下米の減少



一等米とは

玄米の外観や粒の大きさ、虫食いの有無などを目視で調べ、きちんと整った形をしている「整粒」の比率などによってランク付けをする。一等米が最もランクが高く、二等米、三等米、規格外の順となる



24年産米は平年並みに数字が回復した銘柄も多かったが、25年産米以降は再び猛暑の高温によって数字が落ちるリスクもはらんでいる。

年間所得1万円 (2021、22年)

2

「儲からない」コメづくりに苦悩する稲作農家



水田作経営の農業所得（全農業経営体、1経営体当たり年収）の推移

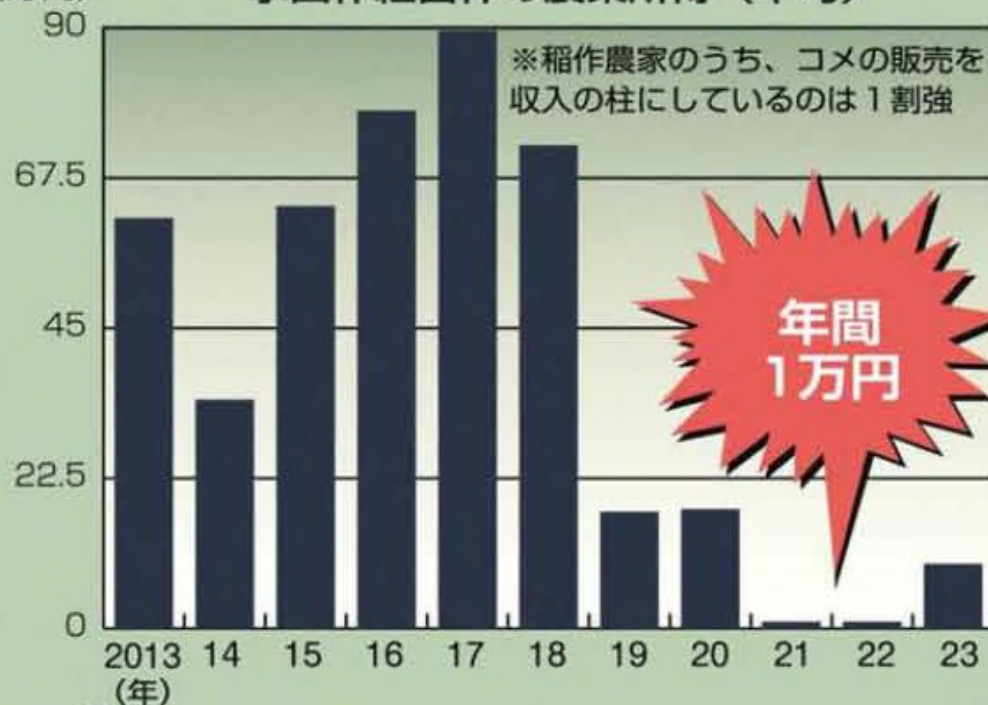
稲作は個人経営、家族経営から法人で取り組む大規模経営までさまざまだが、その農業経営収支は長期的にみて悪化。米価の低迷に加え、100%近く海外に依存している化学肥料や光熱費などの高騰が経営を大きく圧迫し、21、22年は農業所得の年収はわずか1万円となった。

※なお、22年の露地野菜経営の農業所得は218万3000円、施設野菜経営の農業所得は331万3000円、養豚経営の農業所得は304万7000円

※農業所得＝農業粗収益－農業経営費※農林水産省「農業経営体の経営収支」をもとに作成。なお、2013年から18年までと、19年から22年は調査対象と手法が異なっている

(万円)

水田作経営体の農業所得（平均）



※稲作農家のうち、コメの販売を収入の柱にしているのは1割強

年間
1万円



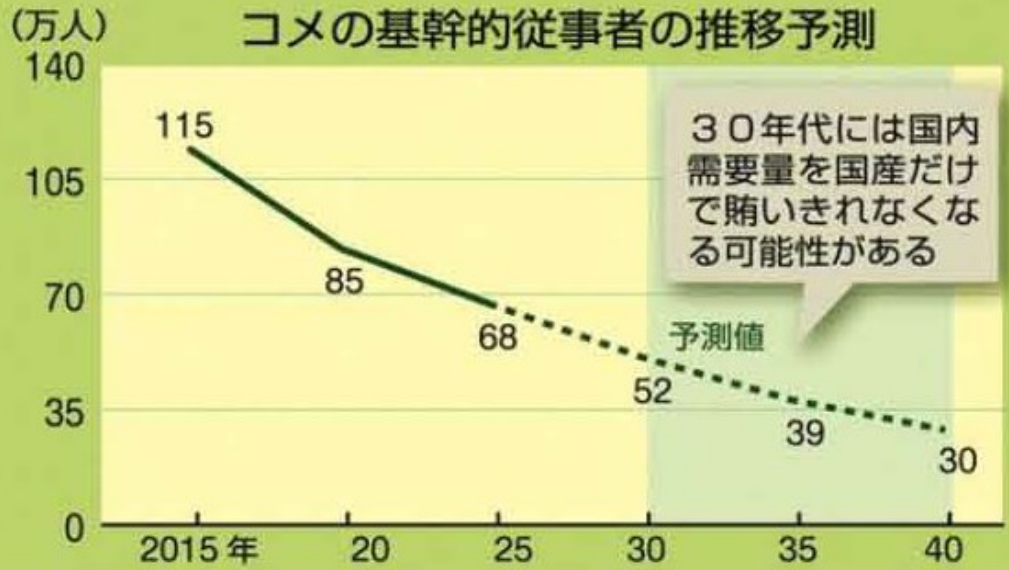
なお、帝国データバンクによれば稲作農家の倒産・休廃業件数が2024年、42件と過去最多を更新

2040年には生産者 **65%減** の予測も (2020年比)



コメの卸売業者が組織する全国米穀販売事業共済協同組合(全米販)は日本総合研究所との協力で「米穀流通 2040ビジョン」を発表した。

それによると、現実的なシナリオとして 2040年の生産者は高齢化による離農者の増加と新規就農者の減少で 20年の 85万人から 65%減の 30万人程度になる、と予測している。





コメは日本人の主食

生産者 生産コストを賄え、担い手が生まれ、育つような価格、政策を

消費者 諸物価が高騰する中、安定的な消費が可能となる価格に

帝国データバンク情報統括部
飯島大介さん

長年の米価の低迷、肥料などのコストを価格に転嫁できなかった農家にとって今の米価は高いどころか、ギリギリのラインといえる。一方、諸物価の高騰が相次ぎ、消費者も限界にきている。農家が来年以降もコメづくりを続けていくために何が必要か国だけでなく、私たち消費者も真剣に考える時期である



長期的な主食用米の価格の動向



24年産米は出荷団体と卸売業者が売買する際の価格を示す「相対取引価格(玄米60キロ当たり)」の全銘柄平均が2万3715円と最高値を更新した。しかし、コメは1993年の「平成の米騒動」の際に2万3607円(年平均)を付けて以降、長期下落傾向が継続。稲作農家にとっては24年の価格は1990年代前半の価格にやっと戻った形だ。



3 コメは急な需給変動への対応が難しい品目



コメは簡単に増産ができない作物だ

工業製品などと異なり、穀物や野菜などは天候などの影響で生産量が変動する。そして、主食のコメは日本の場合、気候の関係で沖縄県などを除き、収穫は年1回だ。春の田起こし、4月下旬から5月半ばの田植え、秋の収穫と、スケジュールが決まっており、需要が増えても生産を急に増やすことはできない。

コメは主食であるがゆえ、消費者の心理的な不安要因となる大地震の発生や原発事故、南海トラフ地震臨時情報の発表などによって需給が一気に揺らぐ可能性もある。

大地震や原発事故などが発生しても途中から生産を増やすことはできない

〈コメ作りの一年〉

・田起こし→苗づくり→代かき→田植え→草取り、水の管理、肥料、防除→稲刈り→脱穀





品薄が顕在化した8月下旬から 対応遅すぎた農水省の取り組み

消費者の需要、不安要因に弾力的、機動的に
対応できなかった農水省

2024年6月末の主食用米の民間在庫量は153万トンで、統計を取り始めた1999年以降で過去最少となった。発表当時、農水省は24年産のコメの流通が今後本格化するとして「需給は逼迫(ひっばく)していない」とコメント。

しかし、古米の在庫量が最も少なくなる8月の端境期のタイミングに南海トラフ地震臨時情報(8日)を発表。農水省の実際の取り組みは、スーパーなどでの品薄状態が顕在化した8月下旬と大幅に遅れた。



コメ不足でスーパーは個数制限

コメ需給見通しが見落としていること

鈴木 宣弘（東京大学特任教授・名誉教授）

過剰、過剰といわれたコメが、突如足りないといわれ始め、急速にコメ不足が顕在化してしまった。

昨年の猛暑による減産などが主因といわれ、それらがきっかけになったのは確かだが、問題は、なぜ、ここまでコメ不足が深刻化したかということである。

根底にある構造的原因を見落としてはならない。

根底には、過剰を理由に

①生産者には生産調整強化を要請し

②水田を畑にしたら1回限りの「手切れ金」を支給するとして

田んぼ漬（つぶしを始め

③小売り・流通業界も安く買ったたき

④ 政府は農家の赤字補てんを放置しているから、農家が苦しみコメ生産が急速に減退してきている農村現場の危機がある。

さらに

**⑤増産を奨励しコメの政府備蓄を増やしていれば、その放出で調整できるのに、それをしないから対応できない。
備蓄は安全保障の要だ。**

まず、稲作農家の生産コストに見合う支払額が確保されなくては経営が続けられないが、あまり価格が上がったら消費者も苦しい。

そこに政策の役割がある。

生産者に直接支払いをして所得を補てんし、それによって消費者は安く買える。

農家への直接支払いは消費者支援策でもあるのだ。

それなのに、稲作農家支援策は議論せずに、コメ不足が収まらない中で、今年のコメ需給見通しでは、驚くべきことに、いまだにコメは余っているとして、さらなる減反の必要性を示した。

猛暑が常態化して低品質米が増えていることは作況指数に反映されない。

だから、生産量を10万トン減らすと減らし過ぎになる。

一方、コメ需要は減るとの見通しは間違いだ。

小麦やとうもろこしの輸入が減るリスクも高まっている中、コメのパンや麺、飼料米を増やすのは安全保障上のコメ需要で、貧困層増大の下でのフードバンクや子ども食堂を通じたコメ支援も必要だ。

それらと備蓄を合わせたらコメ需要は莫大（ばくだい）にあり、減反している場合ではない。

私たちは、国の政策に対しても、もっと声を上げていくと同時に、全国各地生産者と消費者が一体となって農と食を守る「飢えるか、植えるか」運動を展開し、地域から食料自給率を高めていこうではないか。

（東京大学特任教授・名誉教授）

コメ需給見通しが見落としていないこと

鈴木 宣弘（東京大学特任教授・名誉教授）

過剰、過剰といわれたコメが、突如足りないといわれ始め、急速にコメ不足が顕在化してしまった。昨年の猛暑による減産などが主因といわれ、それらがきっかけになったのは確かだが、問題は、なぜ、ここまでコメ不足が深刻化したかということである。根底にある構造的な原因を見落としてはいない。

根底には、過剰を理由に ①生産者には生産調整強化を要請し ②水田を畑にしたら一回限りの「手切れ金」を支給するとして田んぼ漬（つぶし）を始め ③小売り・流通業界も安く買いたたき ④政府は農家の赤字補てんを放置しているから、農家が苦しみコメ生産が急速に減退してきている農村現場の危機がある。さらに ⑤増産を奨励しコメの政府備蓄を増やしていれば、その放出で調整できるのに、それをしないから対応できない。備蓄は安全保障の要だ。

まず、稲作農家の生産コストに見合う支払額が確保されなくては経営が続けられないが、あまり価格が上がったら消費者も苦しい。そこに政策の役割がある。生産者に直接支払いをして所得を補てんし、それによって消費者は安く買える。農家への直接支払いは消費者支援策でもあるのだ。

それなのに、稲作農家支援策は議論せずに、コメ不足が収まらない中で、今年のコメ需給見通しでは、驚くべきことに、いまだにコメは余っていると、さらなる減反の必要性を示した。

猛暑が常態化して低品質米が増えていることは作況指数に反映されない。だから、生産量を10万トン減らすと減らし過ぎになる。一方、コメ需要は減るとの見通しは間違いだ。小麦やとうもろこしの輸入が減るリスクも高まっている中、コメのパンや麺、飼料米を増やすのは安全保障上のコメ需要で、貧困層増大の下でのフードバンクや子ども食堂を通じたコメ支援も必要だ。それらと備蓄を合わせたらコメ需要は莫大（ばくだい）にあり、減反している場合ではない。

私たちは、国の政策に対しても、もっと声を上げていくと同時に、全国各地生産者と消費者が一体となって農と食を守る「飢えるか、植えるか」運動を展開し、地域から食料自給率を高めていくのではないか。

過剰、過剰といわれたコメが、突如足りないといわれ始め、急速にコメ不足が顕在化してしまった。昨年の猛暑による減産などが主因といわれ、それらがきっかけになったのは確かだが、問題は、なぜ、ここまでコメ不足が深刻化したかということである。根底にある構造的な原因を見落としてはいない。

根底には、過剰を理由に①生産者には生産調整強化を要請し ②水田を畑にしたら一回限りの「手切れ金」を支給するとして田んぼ漬（つぶし）を始め③小売り・流通業界も安く買いたたき④政府は農家の赤字補てんを放置しているから、農家が苦しむコメ生産が急速に減退してきている農村現場の危機がある。さらに⑤増産を奨励しコメの政府備蓄を増やしていれば、その放出で調整できるのに、それを見ないから対応できない。備蓄は安全保障の要だ。

コメ需給見通しが見落としていること



すずき のぶひろ
鈴木 宣弘

まず、稲作農家の生産コストに見合う支払額が確保されなくては経営が続けられないが、あまり価格が上がったら消費者も苦しい。そこに政策の役割がある。生産者に直接支払いをして所得を補てんし、それによって消費者は安く買える。農家への直接支払いは消費者支援策でもあるのだ。

それなのに、稲作農家支援策は議論せず、コメ不足が収まらない中で、今年のコメ需給見通しでは、驚くべきことに、いまだにコメは余っていると、さらなる減

反の必要性を示した。猛暑が常態化して低品質米が増えていることは作況指数に反映されない。だから、生産量を10万トン減らすと減らし過ぎになる。一方、コメ需要は減るとの見通しは間違いだ。小麦やとうもろこしの輸入が減るリスクも高まっている中、コメのパンや麺、飼料米を増やすのは安全保障上のコメ需要で、貧困層増大の下でのフードバンクや子ども食堂を通じたコメ支援も必要だ。それらと備蓄を合わせたらコメ需要は莫大（ばくだい）にあり、減反している場合ではない。

私たちは、国の政策に対しても、もっと声を上げていくと同時に、全国各地生産者と消費者が一体となって農と食を守る「飢えるか、植えるか」運動を展開し、地域から食料自給率を高めていくのではないか。

（東京大学特任教授・名誉教授）

予期せぬ天候リスク 後継者難

不透明感増すコメの需給

コメの価格高騰が続いています。総務省が発表した2024年11月の消費者物価指数によると、コメの価格は前年同月比で6.3%も上昇しました。しかし、コメ農家は長年の米価低迷、生産コスト増大で疲弊。さらに気候変動のリスクも高まり、コメの需給バランスは崩れる可能性があります。不透明感を増すコメの現状と今後を三つのキーワードで図解します。

1 気候変動 → 高温障害によって品質低下

夜になっても気温が下がらない熱帯夜が増えた2023年

昼 光合成
でんぷんをたっぷり生成、蓄積

夜 呼吸
呼吸が活発なまま

夜になっても気温が下がらない熱帯夜が増えた2023年

外気温は夜も高くなり、夜は暑さを感じる。呼吸が活発なまま、でんぷんをたっぷり生成、蓄積

屋に光合成で蓄えたでんぷんも呼吸のエネルギーとして、夜に減少

中身がスカスカの「白米熟粒」が増加

白米熟粒(しろみじくりゅう)は実が発育、肥大する「腹熟期」にでんぷんの蓄積が不十分なため、白く濁ってみえるコメ。23年産米は記録的な猛暑が続く、多くの産地でコメの外観、大きさなどを目視する品質検査で白米熟粒が増え、整粒の割合が高い一等米の割合が減少

消費者が口にする主食用米の品薄招く

23年産米は主食用の「一等米」の割合が低下し、加工用の「ふるい下米」も減少

ふるい下米とは

収穫した玄米をふるいにかける
篩目は1.7~2mm程度

加工食品用
主食用

ふるい下米
ふるいの下に落ちたコメは(みそ、米菓、みりんなど)外食などの業務用になる

肥大し、中身がスカスカのコメ目立ち

ふるい下米の発生量(推計)

2023年減少

2024年増加

2014 15 16 17 18 19 20 21 22 23(推)

品質低下による「白米熟粒」の増加

白米熟粒の発生率(推計)

2023年増加

2024年減少

2014 15 16 17 18 19 20 21 22 23(推)

価格高騰のふるい下米の不足

価格高騰のふるい下米の不足

ふるい下米の減少

ワンランク上のコメが不足し、今後はその上の主食用米を買い求める下からの「玉突き現象」が生じる

ワンランク上のコメを買い求める動きが生じる

ふるい下米の減少

年間所得1万円(2021、22年)「儲からない」コメづくりに苦悩する稲作農家

水田作業の農業所得(全農業経営体、1経営体当たり年収)の推移

水田作業の農業所得(平均)

2013 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23

年間1万円

稲作は個人経営、家族経営から法人で取り組む大規模経営までさまざまだが、その農業経営体は長期的に目に見えて悪化。米価の低迷に加え、100%近く海外に依存している化学肥料や光熱費などの高騰が経営を大きく圧迫し、21、22年は農業所得の年収はわずか1万円となった。

※なお、22年の農地野営経営の農業所得は218万3000円、施設野菜経営の農業所得は33万7300円、露地野菜の農業所得は3043万7000円

※農業所得＝農業収入－農業経費＝農林水産省「農業経営体の経営状況」をもとに作成。なお、2013年から18年までは、19年から22年は調査対象と手が異なっている

※なお、菅野データバンクによれば稲作農家の倒産・休業件数が2024年、42件と過去最多を更新

2040年には生産者65%減の予測も(2020年比)

コメの卸売業者が組織する全国米穀販売業者共済協同組合(全米販)は日本総合研究所との協力で「米穀流通2040ビジョン」を発表した。

それによると、現実的なシナリオとして2040年の生産者は高齢化による雇農の増加と新規就農者の減少で20年の55万人から65%減の30万人程度になると予測している。

30年代には国内需要を満足させるだけの生産能力がある

1等米とは

玄米の外観や粒の大きさ、虫食いの有無などを目視で調べ、きざみを整った形をわけて「整粒」の比率などによってランク付けする。一等米が最もランクが高く、二等米、三等米、規格外の順となる。

24年産米は平均値に数字が近づいたが、25年産米は再び猛暑の高温によって数字が高くなるリスクもはらんでいる

24年産米は平均値に数字が近づいたが、25年産米は再び猛暑の高温によって数字が高くなるリスクもはらんでいる

24年産米は平均値に数字が近づいたが、25年産米は再び猛暑の高温によって数字が高くなるリスクもはらんでいる

コメは日本人の主食

生産者 生産コストを補え、担い手が生まれ、育つような価格、政策を

消費者 諸物価が高騰する中、安定的な消費が可能となる価格に

長期的な主食用米の価格の動向

24年産米は出荷団体と卸売業者が売買する際の価格を示す「相対取引価格(玄米60キロ当たり)」の全銘柄平均が2万3715円と最高値を更新した。しかし、コメは1990年代の「平成の米騒動」の際に2万3677円(年平均)を付けて以降、長期的下落傾向が続く。稲作農家にとっては24年の価格は1990年代前半の価格にやっとならった。

コメは急な需給変動への対応が難しい品目

農産物の生産、不安定に増減し、機動的に対応できなかった農水省

2024年6月分の主食用米の民間在庫量は153万トン、統計を取り始めた1999年以降で過去最少となった。発定当時、農水省は24年産のコメの流通が今後本格化するとして「商売は悪い(ワッパッ)していない」とコメント。

しかし、古米の仕入れ量が減るもなくなる5月の地場卸のタイムズに南海トラフ地震臨時情報(巨震)を発生、農水省の米商の取組は、スーパーなどでの品薄状況が顕在化した8月下旬と大規模に運ばれた。

突如高騰する米価が消費者に与える影響

コメは急な需給変動への対応が難しい品目

消費者の苦痛、不安定に増減し、機動的に対応できなかった農水省

2024年6月分の主食用米の民間在庫量は153万トン、統計を取り始めた1999年以降で過去最少となった。発定当時、農水省は24年産のコメの流通が今後本格化するとして「商売は悪い(ワッパッ)していない」とコメント。

しかし、古米の仕入れ量が減るもなくなる5月の地場卸のタイムズに南海トラフ地震臨時情報(巨震)を発生、農水省の米商の取組は、スーパーなどでの品薄状況が顕在化した8月下旬と大規模に運ばれた。

化が主因と見られる。コメは、主として、玄米として、消費者に提供される。しかし、玄米は、精米して、白米として、消費者に提供される。この過程で、コメの品質は、大きく低下する。これは、コメの品質を、消費者が求める水準に保つておく必要がある。政府は、コメの品質を、消費者が求める水準に保つておく必要がある。政府は、コメの品質を、消費者が求める水準に保つておく必要がある。

コメ需給見通し

見通しは、2024年6月分の主食用米の民間在庫量は153万トン、統計を取り始めた1999年以降で過去最少となった。発定当時、農水省は24年産のコメの流通が今後本格化するとして「商売は悪い(ワッパッ)していない」とコメント。

しかし、古米の仕入れ量が減るもなくなる5月の地場卸のタイムズに南海トラフ地震臨時情報(巨震)を発生、農水省の米商の取組は、スーパーなどでの品薄状況が顕在化した8月下旬と大規模に運ばれた。

鈴木富弘

東京大学特任教授・農業教授

●取材：サンデー毎日編集部 野瀬 洋 宇野浩之 末永ことこ
●写真：上野 隆、林本泰隆、鈴木弘弘、菅野データバンク、日本総合研究所、コメの品質を、消費者が求める水準に保つておく必要がある。政府は、コメの品質を、消費者が求める水準に保つておく必要がある。